

授業科目名	書写演習（小）(2100121)		
時間割名	書写演習（小）(34113)		
時間割担当	小竹光夫		
実施期	後期	単位数	2 選択
曜日・時限	水・4		

授業の目標・概要

「書写」は、小・中学校国語科に位置付けられる、国語的な言語意識と密接に関連するものである。高等学校芸術科書道」とは異なり、言語記号としての文字の習得と活用に大きな重点が置かれている。日常生活という視点で考えれば、文字をどう整えて正しく効率的に書くか、効果的な活用をしながら、どんな言語生活を送るかが主眼となることは言うまでもない。「心込めて書く」という表現が多用されるが、いくら心を込めようと読めないのでは言語として伝わらず、何のための文字学習かということになる。本「書写演習（小）」では、初等教員として必要な文字を書くための実技力と、学習者への基礎的な指導能力を身に付けることができるよう学習を展開する。

学習の到達目標

小学校で学習対象となる漢字の楷書と、それに調和する仮名の書き方の基礎を学び、学校教育現場で示範や活用ができる書写力の基礎を身につける。

授業方法・形式

- 1.それぞれの学習テーマに対して、テキストや補助資料を活用しながら授業を進めていく。
- 2.必要に応じて、取り上げるテーマに関するディスカッションを行う。

授業計画

- 第1回 書写学習の流れを理解する
小学校で学ぶ文字種や書体、中学校の学習への展望について理解し、確かめる。
- 第2回 硬筆書写の基礎（平仮名を書く） 基本的な用・運筆と字形の整え方について学習する。
- 第3回 硬筆書写の基礎（平仮名・片仮名を書く） 基本的な用・運筆と字形の整え方について学習する。
- 第4回 硬筆書写の基礎（漢字の楷書を書く） 基本的な用・運筆と字形の整え方について学習する。
- 第5回 硬筆書写の基礎（漢字の楷書を書く） 基本的な用・運筆と字形の整え方について学習する。
- 第6回 硬筆書写の基礎（漢字仮名交じり文を書く）
配置配列を考えて、調和よく書くことを学習する。
- 第7回 硬筆書写の基礎（書式に合わせて書く） 縦書き、横書きの基本を理解して書く。
- 第8回 毛筆書写の基礎（毛筆の効果と機能を考える） 毛筆で書く場面を想定し、学習の意義を学習する。
- 第9回 毛筆書写の基礎（漢字の楷書を書く） 基本的な用・運筆と字形の整え方について学習する。
- 第10回 毛筆書写の基礎（漢字の楷書を書く） 基本的な用・運筆と字形の整え方について学習する。
- 第11回 毛筆書写の基礎（平仮名・片仮名を書く） 基本的な用・運筆と字形の整え方について学習する。
- 第12回 毛筆書写の基礎（漢字仮名交じり文を書く） 配置配列を考えて、調和よく書くことを学習する。
- 第13回 毛筆書写の基礎（「書き初め」を書く）
「書き初め」の意義と効果について考え、事例に従って書く。
- 第14回 身の回りの文字文化と板書
生活の中で生きて働く文字の力について考え、指導者として求められる板書力について学習する。
- 第15回 授業の総括として、これまで身につけたことについてまとめる。

成績評価の基準

毎回の授業中に行う小レポートと毎回の課題レポートを中心に、授業に対する理解度を観察し評価していく。（50％）学習記録ノート(学生作成)の緻密さなどを評価する。（30％）授業内での口頭発表を観察し、理解度やまとめる力について評価する。（20％）

準備学習・復習及び授

文部科学省編『小学校学習指導要領 国語編』や『解説』を準備し、基本的な理解を進めておくことが好ましい。参考図書等については教員側で紹介する。

履修上のアドバイス及

小学生にとって、教師が示す文字は単なる情報の提示としてだけでなく、文字習得の基本となる字形や筆順のモデルでもある。そのことへの理解を深める取り組みが求められる。また、時代に対応する授業実践を展開する上で、文字に関するニュースや教育課題に対して、敏感に反応する毎日であって欲しい。

教材・教科書

試書用の鉛筆（HB～B）の準備が必要であるが、それ以外には特に準備物はない。学習に必要な資料・教材については、毎時間、教員側で用意して配布する。

参考書

各校種に応じた学習指導要領、ならびに解説を準備し、読解しておくことが求められる。学習事項・内容を拡大していく上での参考書類については、各授業の中で紹介する。